

疑惑の愛情 (1959)

HOUND-DOG MAN

メディア 映画

ジャンル 西部劇 ファミリー

製作国 アメリカ

時間 87分

公開情報 劇場未公開・TV放映

【解説】

プレスリーもどきの青春スター、フェビアン主演の西部劇というより、辺境開拓ものの家族劇であり、少年の成長譚。アイドル映画らしい穏健な内容で、監督が活劇一本槍で、後にはそれもハードに究めていくD・シーゲルなので、ちょっと意外な気がするが、この種の作品につきまとうそ寒さを感じさせない出来は、彼のまっ直ぐな演出の賜物という気がする。

山間の農場。A・オConnell扮する篤実な父と厳格な母、可愛い弟と暮らす少年クリントは地味な父の仕事の手伝いに嫌気がさしている。そこへ一家の友人の暢気な風来坊ブラッキー（S・ホイットマン）が訪ねてきて、兄弟は彼と共に猟に出かけることにする。ナマズを釣ったり、七面鳥を撃って野外生活を満喫する彼だが、放牧した豚と共に現れた乱暴者ホッグと諍いを起こす。そして、ブラッキーが秘かに想いを寄せるドニー（リンレイ）の家に七面鳥を届け、食事を共にするが、彼女の手なずけた野良猫をめぐって論争し、彼女の母の大切な皿を割ってしまい、彼らは出て行く。そこで落馬したドニーの義兄デヴィスを発見。骨折して動けない彼を家に運び、その集落の歓待を受ける。呑めや唄えやの大騒ぎにクリントも一曲披露。ダンスの群れになんとなく好き合っている娘を認め、彼は怒ってヤケ酒を仰るのだった。そして宴席で暴れもするが、ブラッキーに諫められ落ち着いた彼は娘と週末のダンスの約束をする。一方、ブラッキーはホッグの妻の誘惑によるめきそうになり乱入してきたホッグに殺されかけるが、クリントの父の勇敢な説得と、ドニーの嘘の証言に救われ、いよいよ身を固める決心をする。父の行いはまたクリントの誇りともなり、彼も父に倣って開墾に精を出すと誓うのだった。

このTV放映題はひどいが（耳を覆うフェビアンの歌唱場面をかなりカットしたのは賢明）、脇役の充実は特筆すべき。翌年シーゲルは本家プレスリーの本格ウエスタン「燃える平原児」を撮り、いよいよ一流監督として認められることになる。

【クレジット】

監督	ドン・シーゲル	Don Siegel
製作	ジェリー・ウォルド	Jerry Wald
原作	フレッド・ギプソン	Fred Gipson
脚本	フレッド・ギプソン	Fred Gipson
	ウィンストン・ミラー	Winston Miller
撮影	チャールズ・クラーク	Charles Clarke
音楽	シрил・J・モックリッジ	Cyril J. Mockridge
出演	フェビアン	Fabian
	キャロル・リンレー	Carol Lynley
	スチュアート・ホイットマン	Stuart Whitman
	ベティ・フィールド	Betty Field
	アーサー・オConnell	Arthur O'Connell
	ローヤル・ダーノ	Royal Dano
	ドディ・スティーヴンス	Dodie Stevens
	クロード・エイキンス	Claude Akins

エドガー・ブキャナン	Edgar Buchanan
ジェーン・ダーウェル	Jane Darwell
L・Q・ジョーンズ	L.Q. Jones
ヴァージニア・グレッグ	Virginia Gregg